



鹿児島県護憲平和 フォーラム情報

NO—142 2022.12.1

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム E-mail:kenheiwa@bronze.ocn.ne.jp

連絡先：鹿児島市鴨池新町5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560



「脅威論」の「脅威」

鹿児島県護憲平和フォーラム代表 平井 一臣

鹿児島県の軍事化が急ピッチで進んでいる。これまで基地問題などに余り関心を持っていなかった人でも、意識せざるを得ないほど動きは速い。馬毛島の軍事基地建設の動き、鹿屋での米軍無人機運用、奄美群島での日米合同訓練などなど。もちろん、この動きは鹿児島県という行政単位だけで見てはいけない。九州・山口から沖縄までの西日本一帯を一括りとした軍備強化のための動きだと言えるだろう。そして、こうした事態を正当化し、人びとの批判を抑え込む役割を果たしているのが「脅威論」であり、「脅威論」の主演は中国であり北朝鮮である。「脅威論」を耳にして私がいつも思い出すのは、1980年代である。この時期、日本国内では「ソ連脅威論」が盛んに論じられていた。主として西側に配備されているソ連軍がシベリア鉄道を使って着々と極東地域へ移動し準備を進めているなどといったことがまことしやかに述べられていた。本屋に行くと、そうした脅威論を煽る見出しが躍る雑誌が何冊も山積みになっていた。しかし、今振り返ってみると、当時のソ連には体制の維持に四苦八苦していたのであり、日本を軍事的に攻撃する余裕などなかった。結局、当時の「脅威論」は、日本国内の世論を刺激し、防衛予算の拡大に貢献

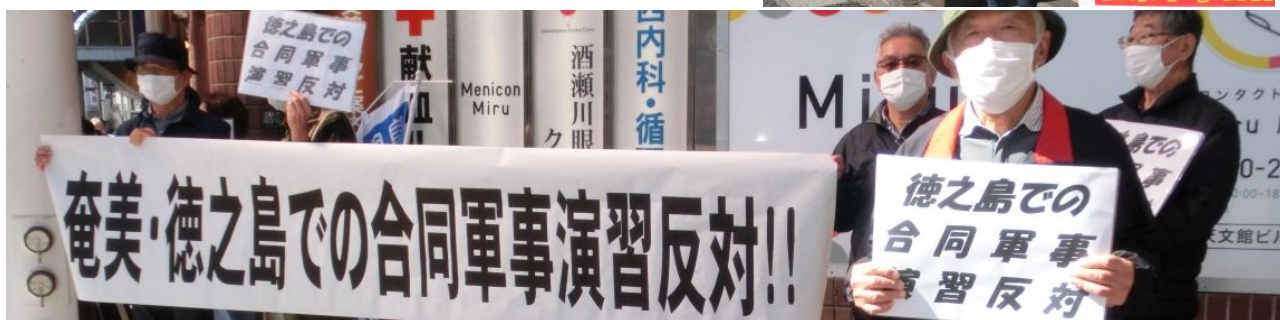
した(当時は中曽根内閣だった)だろうが、その後「ソ連脅威論」が唱えられていたこと自体が忘れ去られてしまった。

もちろん、今日の中国を80年代のソ連と同一に考えられない部分もあるだろう。ただ、行き過ぎた「脅威論」の「脅威」を考えておくことも必要だ。「脅威論」は世論を刺激し必要以上に硬化させる。そこから生み出されるのは不信感や憎悪である。現代の外交関係には世論の動向が大きく影響するし、また政府自体が相手国の交渉に際して世論を利用する場合もある。こうした相手国との外交レベルでの交渉では一定程度の信頼関係が必要であるが、世論の硬化はその妨げになりかねない。今年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻は現在もなお進行中である。外交より軍事、信頼に基づいた交渉よりも力による防衛。日本ではそんな考えが強まり、それがまた、対中、対北朝鮮脅威論を強めてしまった。しかし、現在のロシア-ウクライナ関係が泥沼状態になっているように、軍事的冒険主義は極めてリスクが大きい。そして、何よりも大きな犠牲を被るのは一般の市民である。それを回避するにはどうしたらよいか? 年末年始は、「脅威論」から一步距離を置き、少し冷静になって考えてみたい。

徳之島での合同軍事演習反対！抗議行動

防衛省は21日、自衛隊と米軍による日米合同軍事演習「キーン・ソード」を、11月10日から19日に実施することを明らかにしました。

中国脅威論や台湾有事を意識し、南西諸島を中心に運用能力の向上を図るとし、全体で自衛隊員約26,000人、アメリカ軍約10,000人、艦艇30隻、航空機370機が参加する最大規模の演習です。このうち徳之島では、17・18日に自衛隊の



水陸機動団とアメリカ軍の海兵隊が徳之島町の花德里久浜海岸などで離島防衛訓練を行い、日米双方のオスプレイが参加します。

同様の訓練は2020年に十島村の無人島臥蛇島で行われていますが、日米訓練と離島防衛訓練が徳之島で行われるのは初めてです。

奄美大島では、アメリカ軍のロケット砲システム・ハイマースが展開します。防衛省・統合幕僚監部は「力による一方的な現状変更の試みは許さない」という強い意志のもと、抑止力・対処力を強化する」として、海洋進出を強める中国を念頭に自衛隊とアメリカ軍の南西諸島での運用能力を高めることが目的です。

「鹿児島に米軍はいらない県民の会」は、島民の「命と暮らし」を守らない、守れない訓練に反対し、11月5日(土)11時より「天文館センテラス前歩道」において、抗議のスタンディング行動を行いました。当日は、80名を超える皆さんに行動に参加いただきました。



日米合同軍事演習反対奄美集会の報告



奄美では、「10・21 国際反戦デー集会」を奄美ブロック護憲平和フォーラムも加入している「奄美の自然と平和を守る郡民会議」主催で行っています。3年ぶりに市街地デモも行い、ロシアのウクライナ侵攻の長期化の折から「戦争反対!!」を市民にアピールしました。

その同日に防衛省は、自衛隊と米軍による日米合同軍事演習「キーン・ソード」を11月10日から19日に実施することを明らかにしています。つい2か月前、奄美で三度目の日米共同訓練を8月28日から9月3日までの7日間行っています。奄美市のホームページには訓練場所と訓練隊が、掲載されていました。奄美大島内では、瀬戸内分屯地でハイマース展開した訓練。建設中のトンネル式大型弾薬庫を兵站施設としても機能させる物資輸送訓練を実施すると発表されました。また、今回初めて、自衛隊の駐屯地のない徳之島で、軍事施設のない空白地帯の対処法として、水陸起動団の上陸訓練、オスプレイによる兵員移動侵略作戦等です。

「奄美の自然と平和を守る郡民会議」は、この訓練の危険性を群島民に知らせるために、11月15日(火)に奄美市・名瀬永田橋交差点広場で午後5:30から6:15分まで行いました。また、17日(木)徳之島町・亀津で、18:00から「徳之島日米軍事演習反対集会」開催と17:00からデモを行いました。

郡民会議・星村博文議長は、「かつて、徳之島では米軍基地ができることに全島民が反対した。その教訓が日本政府に自衛隊ならいいだろうという口実を与えてしまった。この共同軍事演習でトリックに気づいたはず。この軍事訓練のありきの流れを変えていかなければならない。」呼びかけました。

退職教職員協議会・会長、勇寛和さんは、「奄美大島は陸上自衛隊が配備されたために、今では標的の島になっています。それを恐れて日米が何度も軍事訓練をする現実になっている。ウクライナ戦争で防空壕にこもる住民は、命をつなぐために食料確保に窮している。離島の奄美大島・奄美市の食糧自給率は低く、台風時の欠航でスーパーの食料は、数日で底をつく。戦争になったら敵の上陸前に島民は、飢え死にする。「命ど宝」、戦争への道を群島民全員で遮断しましょうと、訴えました。

奄美憲法九条の会・文澤竹弘会長は、ウクライナ戦争は、長期化している。それはNATOと米国対ロシアの戦争になっている。「武力では解決できない」ことがはっきりしている。平和憲法を有する、唯一の被爆国の日本が、仲裁にあたらなければならない。この際、自衛隊は、装備品・武器を放棄し、「国際救助隊」と改編して、戦争処理の任務にあたらどうか。結果的に奄美に自衛隊は存在しなくなる。本当の意味での世界自然遺産の島になります、と訴えました。

立憲民主党県代表の関議員は、日米軍事訓練が恒常化してきている。自衛隊を誘致した奄美市誘致議員団は、今どのように考えておられるのか、自衛隊の駐留が抑止力なのか、米軍と合同で対処して抑止力が高まるのか、今、島民の安心安全はかえって脅かされている。

島おこしは、軍事施設配備による交付金目当てであってならない。雇用拡大の面からも地場産業の育成に力を注がなければいけない。自衛隊施設は早々に撤退してもらわなければならない。

共産党の崎田正信市議は、奄美を含む南西諸島で軍事・軍備強化が行なわれています。今一番懸念されるのは、台湾海峡で中国軍と米軍との偶発的な武力衝突が起こらないかということ。集団的自衛権行使を容認した安保法の下では、日本が攻撃されていなくとも、同盟国ということで、自衛隊が米軍とともに行動することになり、専守防衛を逸脱した憲法違反の道を進むことになります。みなさん、絶対に憲法九条を死守しなければなりません。と訴えました。

地区労連事務局長の岡千草さんから、「奄美はこれからも軍事要塞の島とは無縁の自然豊かな島であり続けたい」「今後のすべての軍事訓練に反対する」などの集会決議が提案され、全員一致で採択されました。

最後に星村議長より、「奄美の自然を守ろう」「日米軍事訓練をやめよ」「戦争絶対反対」と、シュプレヒコールを上げました。

11月16日には、瀬戸内分屯地で、ウクライナで稼働中の高機動システム・ハイマースの訓練が実施される予定されています。郡民会議から「中止要請書」を提出することを確認して集会を終わりました。



「絶対に奄美の島を戦場にしない！」

日米共同訓練反対徳之島集会・訓練監視活動報告

代表 下馬場 学

日米共同訓練「キーン・ソード（鋭い剣）」の一環として、10月17・18日に徳之島での初めて行われる日米共同訓練への抗議集会に参加した。奄美においては、9月に日米共同訓練「オリエント・シールド（東洋の盾）」が行われたばかりである。「キーン・ソード」は全国規模で展開し毎年行われ、今回で16回目を迎える。自衛隊26,000人・米軍10,000人、豪・加・英軍艦艇、豪・加軍航空機が参加する大規模なものである。日米指揮官はマスコミを護衛艦「いずも」に総動員して共同訓練の意義を会見で発表している。「いずも」は最新鋭機F35Bを搭載することによって空母化する護衛艦である。その訓練が、サンフランシスコ条約締結の時、沖縄・小笠原と共に復帰できず、切り捨てられた島・奄美で実施される。集会に先立って、途中街宣をしながら徳之島島内3自治体に申し入れ。どの自治体も、町長は不在で総務課長等が対応したが、こちらの主張に頷きはするが、(当然かもしれないが)明確な意思表示はしない。天城町有志が自衛隊誘致をしていることに、「自衛隊＝米軍」であることを指摘し、行政としても危機感を持って対応するよう要請。

17時から、奄美の自然と平和を守る郡民会議主催・鹿児島県護憲平和フォーラム共催のデモ行進・抗議集会を開催した。日没が早いことから、島民への教宣行動としてデモ行進を先にとりくむ。現職は途中からの参加となったが、シュプレキコール・プラカードなど帰宅途中の島民に訴えることができた。



デモ行進終了後、徳之島文化会館で反対集会を開催。始めに主催者を代表して関郡民会議副議長が挨拶。「離島が戦場になる危険性・現在も繰り返される低空飛行に象徴されるように日米地位協定下でより一層奄美の生活が脅かされる。自衛隊は国民を護らない。」と指摘。共催者代表としてわたしも「有事の際、オリエント・シールドで奄美が戦場になりながら防御し、キーン・ソードで反撃（島嶼奪還）に出る。鹿屋・馬毛島そして奄美（南西諸島）がアメリカを守る戦略の犠牲になる。共に闘っていこう」と訴えた。その後、各町からの参加者や移住者・政党・団体の思いのリレートークを行う。「目の前で叔母を機銃掃射で殺された。戦争は絶対にいけない。」と訴えた退教協の仲間や「静かな豊かな島に惚れ込み移住し、カフェを開いた。戦争につながることは許されない。」と訴えたIターン者の言葉が強く印象に残る。伊仙町出身の福司山県議からも激励のメッセージ。「徳之島は世界自然遺産登録にふさわしく、自然豊かで『子どもいっぱい』の環境に適した、平和な島であり続けることを希望し… (略) …すべての軍事訓練にも反対する」集会決議を採択し、集会を終了した。



翌18日は上陸訓練・オスプレイを使っ
ての訓練への抗議。午前の上陸訓練は天候不順のため午後に延期となったが、海が荒れている

ようには見えない。オスプレイの訓練がある伊仙町の議名山運動公園に向かう。自衛隊ヘリの着陸・離陸訓練の後、オスプレイの姿が見えてくる。腹底に響く重苦しい音が響き着陸する。機銃を持った自衛隊員が十数名機体から出、回りを確認し指揮官らしき者からの指示によって機体から離れていく。数分後、任務を終了したかのように隊員が集結し、オスプレイに乗り込んでいく。隊員が乗り込んだ後、オスプレイが離陸。着陸以上の凄まじい爆音を残し飛び去っていく。これが繰り返される沖縄そして低空飛行が日常化する奄美を思う。

上陸訓練の行われる徳之島町花徳油久海岸に向かう。訓練があることや一般に開放されることが町内放送されており、多くの島民が見学に集まっている。「戦争＝人を殺す」のため訓練であることの緊張感は感じられない。「イベントを見に来た」感覚か？

沖合の艦船からゴムボートが海岸に向かってくる。北の海岸に接岸し隊員が上陸するのが遠方に見える。続いて水陸両用車が近づいてくる。海岸近くになると白煙で上陸部隊を隠しながら接近してくる。巨大な水陸両用車が目前にあらわれる。その巨大さに恐怖を覚える。車両から出現した隊員は銃器を構え車両の前で周囲を確認しながらひざまずいて警護の態勢。沖合からホバークラフトが水しぶきを上げながら上陸。水陸両用車の第二派が上陸。出てきた隊員は連携して迫撃砲を設置。一定時間の後、迫撃砲も撤収し、訓練を終了。訓練終了のアナウンスがあると拍手が沸き起こる。

訓練には、日米・オーストラリア・カナダ・イギリスの他にオブザーバーとしてインド・ニュージーランド・フィリピン・イギリス及び



NATO が参加している。オスプレイの訓練を各国の代表が、談笑しながら視察している。中国を包囲するための新たな軍事同盟・国民の生命を守る視点不在を目の当たりにした。

オスプレイ・水陸両用車の展開、まさに島嶼奪還の訓練。日米軍いや日本政府は奄美群島が戦場になることを前提にしているが確信できた。そのことによって犠牲になるのは誰なのか?! 島民いやわたしたち国民は自分のこととして意識しているのか。

この訓練には、オーストラリア・カナダ・中国と多くの外国のマスコミが集まっていた。それだけ、この訓練が意味する者が大きいものであることがわかる。と同時に、インタビューに答える島民が「中国が怖い中でのこの訓練はありがたい」(反対の旗を持つわたしたちに)「(自衛隊員は) 国のために頑張っているのに」と抗議する島民、訓練終了時の拍手・水陸両用車との記念写真…。



多くの課題を突きつけられている。わたしたちは、日米共同訓練は日本の国民を守るのではなく、米中覇権争いのアメリカのための手段であり、捨て石になり犠牲になるのは日本国民であることを広く教宣しながら、「武力では平和は築けない」、外交・交流による平和を訴え続けなければならない。

12月期の取り組み

12月 8日(木) 不戦を誓う日の集会(北薩ブロック担当)
18時 出水市マルマエホール

9日(金) 鹿児島ブロック「9の日行動」

17時半～ 鹿児島中央駅東口ひろば

11日(日) 「教育と愛国」映画上映会

10時～12時、14時～16時

鹿児島市中央公民館

17日(土) 「島を守る 第1章 波紋」上映会

馬毛島基地建設反対のとりくみの記録

14時～ 自治会館401号室

断固抗議する

塩田鹿児島県知事

12月議会で「馬毛島基地建設を容認発言」

(2022年11月29日議会本会議で表明)